

經濟單位の概念と其變遷

伊 藤 久 秋

碩學ルヨ・ブレンタノの近著 Die Anfänge der modernen Kapitalismus, 1916 漸く近頃に至り吾人の手許に來れり、今本書の附録として登載せらるゝ一篇 Über Begriff und Wandlung der Wirtschaftseinheit を譯出紹介す。

數十年以來吾人は古典派經濟學者に反して經濟學を歴史的立場より取扱ひつゝあり。されど歴史的經濟學派自ら古典經濟學の觀察法に纏はれる少なからぬ謬想を踏襲せるものゝ如し。古典經濟學は個々人より即、個々人の慾望と之が充足を目的とする活動より出發せり。乃ち個々人は彼等の目して經濟單位となす所なりき。歴史學派の觀察法が自餘の點に於て如何に古典學派の夫と異なれりとは云へ此點に於ては歴史學派は毫末も變ずる所なし。彼等は實際生活に於て經濟單位は果して何ぞや而て時勢の推移の中如何の變遷を爲したるやの問を提したることなし。現在過去の經濟現象に關し少なからぬ謬想は之に關連して生ぜるの觀あり。

以下之に關する予の見解を開陳するに就ては實は躊躇する所ありたり。此問題解決の爲には一論文にて足らず恐く一大著書を必要とすべし。然れども之れにつき予の言ふべきことの資本主義及其發展を了解するに當り緊要なる途に予をして幾多の批難に遭遇するの危險を賭しても

茲に表白せざる能はざるを感せしめたり。

予が本論を草するは從來十分なる注目を拂はれざるの憾ありし所を少しく指摘し以て之に下さるべき批評に由て啓發せんとする外他意あらざるなり。

先づ、第一に概念につき數言せむ。經濟單位は個々人と同一ならず。過去は云ふまでもなく現在尙然らざるなり。一例として一夫一婦及尙學齡にある數人の子より成る今日の家族をとらむ。予は茲に妻は如何なる範圍に於て夫とならんで獨立の經濟單位なるやの問を不問に附すべし。民法によるに妻は自ら贏得したる物につき處分權を有するも之が其正當なる慾望を充すに足らざる時又夫は妻を扶養せざるべからず。而て學童に至つては如何なる場合も尙未だ經濟單位にあらず。勿論彼等も肉體的には自己の慾望を有すされど經濟上彼等の慾望は其家族の慾望なり、原則として尙彼等は贏得をなさず。或は之を爲すも其生計には不足にして家族の贏得する所の恩恵に浴するものなり。彼等は未だ所有物を有せず家族の所有物を共に享有するのみ。而て彼等が處罰さるべき行爲を爲す時之に責任あるは自己にあらずして其父なり。茲に於てか個々人必しも經濟單位にあらざるなり。されど多數人と集て一經濟單位を成し得ることあり、主眼とする所は彼等の慾望充足を目的とする活動が共通の計算の下に行はれ此活動の結果が經濟に屬する個々人に對し其勞作の標準によらずして他の者の認めて正當となす慾望の標準に由て歸屬すること従て多數人の各々は各人の正當なる慾望につき其全經濟的勞作を以て責任あることに存す。

由是觀之、經濟單位の特質は經濟行爲、贏得、贏得の本源たる慾求、財産、責任、これ等すべての統一之なり。かゝる統一の存する所、其の存する範圍に於て多數の個々人のみならず多數の個々家族、否、或は多數の氏族 *Geschlechter* od. *Sippen* 及多數の種族 *Stämme* 相合して一の經濟單位を成す。

原始的の經濟單位は所謂大家族 *Grossfamilie* なりき。大家族とは全員唯一の家權に服せる家族共產體 *Hausgemeinschaft* を意味す。系統上、血族者より成立す。されど之には尙非血族者にして自由人と否とを問はず家族共產體に編入せられたる者をも包括す。決定的要素は唯一同一の家權に服する點に在り。

次で家族共產體の上には氏族、氏族の上には種族、種族の上には終に民族 *Volk* が一定目的の爲の包括的經濟單位として羽翼を張る、即すべてが慾望、慾望の爲の贏得と所有の統一、及責任の統一に由て一の權威即各人に其分を得せしむる一の權威の下に統合せらるゝなり。民族が單位として地域を占有するや進んで此地域を種族間に分割するに至る、則自己に割當られたる地域を他種族を排除して獨立經濟單位として保持するに至り次で氏族團體 *Geschlechtsgenossenschaft* は種族領域内の一定のマルクに占據し進んでマルクの各部分につき家族共產體の特殊財産を認むるに至り、是より又夫婦と其子のみより成る所の個々家族に此財産の分割をなし更に此家族の各員を以て今日の法律上或關係に於て獨立の經濟單位と認むる時勢を來せるものなり。然れども進化の道程は常に包括的經濟單位より漸次個人への崩壞過程を示すに止らず。又一

方家族共產體の原始的經濟單位がグルンドヘルシャフトの自然的擴大と他方、原始的自然的經濟單位の人工的補成を示す。彼の擴大は從屬者多數を包擁する家族共產體にて之を見る。特に家畜の特殊財産次では土地の特殊財産が成立して後吾人は常に血族者のみならず非血族者が家長より家畜後年に及んでは土地を借りて富有なる家族共產體の主長に從屬せるを見る。家畜主 Viehherr 後に地主 Grundherr が其從屬者即自由人及奴隸に對する事恰も家長が其家權に服せる者に對するが如し。其權力は擴大されたる家權なり、彼に服從せる者の慾望は凡て彼の慾望たり而て彼の慾望は彼等の慾望たるなり且彼の權力は彼等各々の分與を定むるものなり。他方移住が行はれて後血族關係の帶が近隣關係の帶により補はれたる所にては元の氏族團體に代つてマルク團體及村落團體並に都市發生するに至れり而て家族共產體の帶が十分ならざる所にては人爲的なる補成を成し其組織を目的に適應せしめて茲にブリュールシャフト及ギルド發生せり。前の集合生活を根據とする團體も亦此ブリュールシャフトも慾望の統一及慾求滿足をなす行爲と慾求滿足に供せらるゝ財産の統一と並に責任の統一に由て統合せられあるものなり。されど此擴大と補成と相伴ふて個々人への崩壞現象は其步調を進め遂に個々人互に獨立の經濟單位として對立するに至る。往時の經濟單位が此の如く崩壞し行く一方には一共同の領域に住する凡ての者の上に一新獨立の經濟單位勃興し來るあり。即ち多くは家族共產體の進化して成れるグルンドヘルシャフトの一が他の家族共產體他のグルンドヘルシャフト並にギルド及都市を服從せしむるに至る、國家即ち之なり。國家は彼の往時の共產的經濟單位即ち凡ての人民

の上に立ち其財産につき各人に直接の用益權を與へたるものと甚相異せり。又決して個々人の總計と同じからず蓋し國家は個々人に對し一特別の個人として立ち特別の慾望を有し之が充足のために特別の經濟を營み以て其領域上に存する諸經濟單位と並び且其上に一の獨立せる經濟單位を成すなり。國家は此等諸經濟單位の權限即相互の權限を定む。かくて相互の關係につき國家により保護せらるゝ所の漸次小なる獨立の經濟單位發生し行き遂に此經濟的崩壞過程は男女及其結合より生せる子より成る所の家族に到達するなり而て往時の家族共產組織と異りて之に屬する個々人の特殊の經濟的範圍は法律上認めあるものとす。

されば經濟單位の發展は全體より個々への徑路をとれり、斷じて其逆にあらざるなり。經濟單位としての個人は發展の當初に存せずして發展の最後に存す、されど獨立自存にあらずして其上に立つ經濟單位たる國家により制限され保護され助長せらるゝものなり。而て如上の全發展過程を喚起し自己の發展上逆に此發展過程により影響せらるゝものは商業なりとす。

此事實を洞觀せんが爲に予は凡ての經濟單位を初めより今日に至るまで對外上對内上支配する所の原理につき數言せざるべからず。

當時の發展階段に於ける經濟單位の如何なるものたるかを問はず凡そ各經濟單位は對外上は常に自利主義を以て支配せらる而て其自利主義たる、この上に立つ高級經濟單位が之に限界を附せざる限り無制限なるものなり。即他の經濟單位に相對するや常に無限の財貨量を求むるなり。

然るに經濟單位の内部に於ては異れり。苟も多數人相集て一經濟單位を成す所又其限りに於て各人相互の關係は觀慮逡巡なき自利の主張に由て定められずして權威と慣習に由て定めらる。然るに從來一經濟單位の下に相結合せられたる者が獨立の經濟單位と化するに従て初めより外部に對する經濟單位の態度を支配したりし原理が彼等相互の關係にも標準となるに至る、即可成最大の利益追求之なり。

一經濟が自足的封鎖的ならざるに至るや即ち他と相交るに至るや忽ち此變化を生ず、而てこれ商業に由て起るなり。

民族種族氏族が經濟單位たる間には其内部にては商業存せざりき。マルク團體グランドヘルシャフト及之に従へる村落團體内部にても同じ。個々人の慾望は即單位の慾望なりき。單位は各人が舊慣に由て受く可き所を定めたり。全員の僅少なる慾望は自足的經濟内にて充足せられたるものとす。商業は纔に他の經濟單位に屬する者が偶々財貨を携て來るに於て生じたり彼等は此財貨を以て新慾望を喚起し以て彼等の望むものを獲得せんとせしなり。即ち、これフェテキア人希臘人羅馬人が原始的なるゴール、ゲルマンの民族と商業關係を結び又シリヤ、猶太の商人がメロウキングル、カロリングル時代の大領主と對したる時爲せる所又、今日に於ても未開民族種族との交易に際して吾人の現に行へる所なり。

然るに外人は即、これ敏なりき。素と、外人との交通は只戰爭的なりしなり。自己の彼より強大なるを感じ、彼の土地の自領より肥沃ならんか輒ち之が奪取を企てたり。茲に於てカツキ

デキデスの記するが如く肥沃を以て聞こへたる希臘の土地が初め屢々住民を變へたるの事實あるなり。若し夫れ彼を驅逐することを得ざらんか輒ち海陸の侵畧を敢てせり、ツキデデスは海濱の希臘人が初め海賊を營み又、大陸にて相互に掠奪を爲したるを記す。これ等掠奪は強者、領主の指揮の下に行はれたる所以のものは蓋し彼等自己の私腹を肥さんとし或は其從屬者に糧食を供せんと欲したりしなり。此種の手仕事を以て其主要生計を支ふるも何等之を恥とする所なかりき。加之、上述の如くゲルマン人にては戦争が最初の組織的贏利法なりしを見る。且中世紀を通じて尙戦争は贏利行爲として存したり。

然るに外人が自己を防備すること能はざる時は戦争的交通に代つて商業が行はるゝに至る。交換の行はるべき市場は勃興せり。市場は特殊の神の保護の下に置かれたり。されど十五頁に既に述べたる如く市場にては槍と劔とを以て外人に相對せずとは云へ外人は常に敵なり。從て外人との財の交換は慣習によらずして臨機最大の利益を得んとする努力にて支配せられたり。中立の市場を保護したる神はマーキユール即使者、商人、盜賊の神たり。此の交易上外人を欺き陥入ることは恥辱にあらずして却て之が瞞着は道德として通用せり。文化低き凡ての諸國民の非常なる不正直は之と關聯せるもにして商業上の一方の利益は他方の損失を起さずしては不可能なるを教へて教父が商業を蔑視したりしも亦之と關聯せりとす。

かくて經濟生活上可成的最大の利益實現の努力は初め外人との平和的商業取引に於て起れり。されど此原理は尙國民經濟が主として自己の慾望に對してのみ生産したる間は對外商業の

範圍に限れり。其間、内國の商業、交通、工業、農業に於ては權威と慣習の支配すること依然たり。例へば中世の商人が都市人より取り得べき價格は官憲に由て規定せられたり。都市は中世紀に於ても尙一の經濟單位を成し都市人は對外上一總體として觀念したるに止らず内部に於ても相互密接なる關係を成せり。

外人即敵にして商業路甚だ不良に此上の生命財産が危險なりし當時に於て中世紀の商人は商業上の障礙を單獨にて除去すること能はず、且秩序を立つべき國權なかりしを以て商人は自己の利益擁護を共同に行へり。組合組織を以て彼等は自己の領主、外國領主の壓制に對し擁護の道を講じたり。就中、一般旅行の權次で身體生命財貨の安全、相互の紛争に際しての自己裁判權、專斷の沒收に對する保護、過重專斷の税金の免除を免めたり。此種税金に代りて商人を統合せる團體、換言すれば初めにギルド次でギルドが都市に指導的勢力を振ふに至りてよりは都市が包括税を支拂ふことゝなれり。個々商人の經濟單位の上には高級經濟單位としてギルド起り次でコミュニティ、都市起れり、ギルド後には都市は都市に於ける商業經營に對する權能の所有者なりき。個々商人は只都市に屬するの理由に由てのみ之に對する權利を有せり。

然るにギルド及都市の經濟政策は二重なりき。即其從屬者相互間の關係に關する對内と外人に對する對外に由り異りたるものなり。兩關係に於て其原理は凡ての經濟單位の原理なりき。對外上そは可成最大の利潤を免めたり從て他所他國に於ける販賣及購入につき可成利益ある特權を求めんとし之に反し内國商人の利益の爲に開^{スタツペルヒト}市權を得んと努め更に食料品特に穀物並に

工業原料を可成低廉に給せんとし従て之が輸送を容易ならしめんと努めたりしなり。されば都市民にあらざる者はその、他都市の商人たり又は領主たり將た農夫たるを問はずこれより食料品或は工業品を買ふ時はこれ外人にして之に對する關係は權威と慣習に由り定められず可成最大の利潤追求が原理を成せり。他都市との戰爭に當りては之に對する商業禁止が行はれたること云ふまでもなし。之に反し、ギルド所屬者相互の關係は權威と慣習に由て定められ従て各人應分の「生計」^{ナイン}を見出すてふ觀念が支配的なりしものとす。茲に於てか各自の爲し得可き行爲に嚴密の制限が附せられたるなり。

手工業者のギルドに就ても亦全く同一なり。手工業經營に對する權能を有するものは個々人にあらずしてツunftなり、これ即經濟單位たり。個々人が工業經營に權利を有するはツunftに屬する理由に由てのみ且ツunftに附せる條件の下に於てのみ然るなり。外部に對してはツunftは可成最大の利益實現の努力を以て精神とす。其目標は可成最大の特權なり進んで強制權なり獨占なり。茲に於てか他都市生産の工業製品の輸入を禁じ内國手工業者が其工業經營のために必要とする原料の輸出を禁じ又各工業に許さるゝ活動に嚴密の限界を附するに至る。同一工業を營む者は凡てツunftに入らざる可からず之に屬せざる者は何人も其經營を許されず。内部に對してはツunftは全組合員を一家族の如く包擁し彼等相互の關係を之に從て規定するに於て其經濟單位たる性質を表はせり。其原理はギルド員間の競争を排するにあり即、勞働時間を制限し休業の規定を爲し糶下げ糶上げの禁示を爲し各組合員は他の者の材料購入に加

擔するの權利あるを定めたり。又徒弟の數を制限し組合員には屢々原料と勞働用具を與へ販賣の場所時間を規定し廣告を禁じ價格を定めたり。生産過程は權威と慣習とを基礎とし親方仲間の關係亦同じ。括言すれば何れの關係に於ても工業經營は自由ならざりしなり。手工業に屬する各人は其生計を得んがため其時間と財産を消費するの自由を有せず。

農業に於ける又全く之れに同じ。農業は實に其技術の幾百年の長き變化せざりし經濟經營たり。經濟單位として吾人はグルンドヘルシャフトを見、之に屬せる小作人は下級の經濟單位を成せり。外部に對してはグルンドヘルシャフトは逡巡する所なく自己の利益を主張す。其小作人との關係は小作人の身分に由て定めり、詳言すればその自由人たるか半自由人たるか將た下つて奴隸たるかに由て定められり。各人の領主に對する納税は法律上定めらる。されど此處に亦顯著なる標準あり、古アイルランドの法律には rack-rent 卽外國種族に屬する者より徴せらるゝ可成最大の收穫に應ぜる賃料と同種族に屬する者より徴せらるゝ低き賃料との間に注目すべき區別あるを見る。同様に吾人は到る處、從屬者の納附すべきものが彼等の被征服外部種族の子孫なるか將た種族員として優良の權利を分有せるかに從ひ相異なるを見るなり、

由是觀之、當初より經濟單位は二原理によつて支配せらる。卽外部に對する行動に於ては可成最大の利益實現即無限の富と力の追求之が原理たり。其分子相互の關係に於ては從屬者各自に其地位と權利に從て生計支持に不可缺少とせらるゝものを與ふるの見地よりする權威と慣習が支配的なりしものとす。

一經濟單位の分子相互の内部關係を支配したるかゝる原理には經濟單位の崩壊する程度に應じて變化を生じ來るものなるが此變化たる先づ自然經濟より市場相手の經濟への變化行はれ次で生産物を賣るべき市場の事情に或變化の發生する程度に従て生ず。一國民經濟が他の國民經濟に於ける販路のため財貨の生産を行ふの程度に應じてそは市場の事情に従屬するに至るものにして市場に於ける自由競争の發生する度合に従て可成最大の利潤追求により支配せらる。

外國販路は初め偶然不規則なるものなり。然るに漸次、前述の特權と獨占とを基礎として規則的の商業關係は發生せり。近代國家の發展を始むるに至つてや國家は内部に於て個人を中世紀的拘束より解放し外部に對しては外人に附與されむる凡ての特權を廢止し其國民の自由なる勢力發揮を圖りたり、かくて各國商人が從來外國各市場に振ひたる支配權に代りて活氣横溢の競争は生じ當に他の國又は他の都市の商人とのみにあらず從來或程度まで彼等を結合して一の經濟單位となしむる舊ギルド條帶の崩壊に従て相互間の競争をすら生るに至りたり。ギルド條帶の崩壊は外國商業が重要な度を加ふるに従つて既に早くより起れり。都市商人が其一人の犯罪債務に對し責を負ふことの廢れたるは其一證とす。

外國市場に於けるかゝる競争は内部經濟生活に一の反作用を及ぼす。可成最大の利潤追求が生産物の販賣を支配すべくんば又生産に就ても同様ならざるを得ず。かくて國民經濟の領域も相次で其影響を被り到る處古經濟單位の存續を破るに至る即其分子は從來課されむる拘束より脱し權威と慣習は彼等相互の關係を規定することを止め之に代つて可成最大の利潤追求現れ

當に分配のみならず財貨の生産消費の決定を左右す。商人が外國市場にて獲る所の價格が競争の爲に低下せられんか、即ち彼等は内國生産者に從來の價格を支拂ふ能はざるの立場にあるなり。生産物は從て低廉に生産されざる可からざるに至る。かくて權威と慣習とを以て生産を規定すること不可能となり可成最少の費用を以て可成多くを獲得せんとするの努力が之に代つて經濟生活の支配を爲すに至れるなり。

新原理は先づ第一に内國商取引特に貸金の規定に於て行はる。

最初はすべての民族に於て同種族間の利子取得は *Wucher* として禁止されたり。中世紀に於て基督教徒が同宗徒より利子をとることは禁せられたるが他宗徒より取得することは妨げず又猶太人が基督教徒より取ることも同様に許されたり。而して商人に就ては商取引の進歩し來るに連れこれ亦忍ばざる能はず。

次で吾人は可成最大の利潤追求を表幟とする商人が苟も利潤の望みある商品には其取引を擴張しかく「生計」の安固の爲に商業經營に對する各人の權利を其ギルドに特定の商品に限りたる舊來の制度と衝突するを見る。

更に進んで工業が其生産販賣につき初め國內的次で國際的競争の下に立つに及ぶや從來權威と慣習とが工業經營に課しゐたる限界は最早支持すべからず。最低費用もて生産せんとする努力の結果、茲に一新技術起る則、官憲と慣習による勞働條件の規定は廢せられ法律的規定による昔時の勞働狀態に代つて各自其利益を極端に利用せんと努力せる自由人相互間の契約を基礎

とする勞働狀態發生す。

最後に最保主的なる經濟經營たる農業も亦此例に洩れず。各經營が自己自身に對する間は權威と慣習が絶対に支配す。然るに領域が孤立せざるに至るや事情に變化を生ず。都市の勃興と共に農產物に對する市場勃起せり。茲に於てか收穫の一部分は規則的に販賣せらるゝに至る。今や大地域相手の勘定は始まるなり。各土地は慣習上年收幾莫なるかを確知し之と得られたる年收とを比較し以て經營上の或種の變化が或は收穫を増加し費用を超過する餘剩額大なるを致さるやと考慮し此目的の爲に物品納と勤勞は貨幣地代と貨幣支拂の勞働者に代へらるゝなり。然るに賃銀上騰し初めたる黒死病當時以後身分法が行はれたり。慣習上勞働者に與へらるゝ賃銀が法律上標準とせられ之と苟も相違すれば刑罰を課せられたるなり。然るに交通發達すると共に自己の要額丈の生産を爲し得ざる國に向つて規則的に穀物を送ることを得るに至れり。かくて舊時の封建的組織に代つて農業上資本主義的組織が愈々傳播を始む。市場相手の生産の結果として農業經營は可成最大の利潤追求に支配せらる。農業上の賃銀は最も長く不動狀態に在りしが遂には農地勞働市場にも競争が感知せられ勞働賃銀を慣習以上に騰貴せしむ。

かくて外國市場との接觸に従て生じたる販賣上の競争は經濟生活の各方面に於て舊經濟單位の崩壞を將來す。凡ての方面に於て權威と慣習の勢力は消滅し以て可成最大の利潤追求が一般となり今日の狀態は之を基礎とするが故に遂に人は一見すべての經濟に例外なしに又永久に通ずる經濟の本則として可成最少の費用を以て可成完全に汝の慾望を充せと稱するに至れる

なり。

眞に果して此原理は永久的なるものやに關し上述せる所はこれ古くより然りしにあらざるを示す、又今日に於ても尙無例外に經濟生活を支配するものにあらず、絶對的に通用するは今日とても尙世界市場に從屬せる經濟に於てのみ。其他の場合には今日も尙例外が同様に行はるゝものにして特に消費者が小賣人と取引する際又は經濟的不敏の結果、或は社會的觀念により他の行動が尊重すべしとさるゝにより將た、經濟の觀點以上に技術の觀點を重んずる爲、或は愛他的動機と倫理的見地より然ることあるなり。

されど此等の例外は經濟の本則が今日經濟生活を支配する事實に何等の變更を及すものにあらず。加之、貨幣經濟の作用の下に舊社會制度の根柢、即家長の權威により規定さるゝ家族員の共產體は個人的家族より跡を斷ちつゝあるなり。例へば茲に現代の一勞働者家族を見むに父母、二人の學童と既に勞働せる十七歳の少女と既に普通の勞働に従事せる十八歳の少年より成ると假定す。父は一週二十五麻克、妻は洗濯女として一週七乃至九麻克、二人の學童は未だ收入なく之に反し十七歳の少女は少額ながら收入あり十八歳の少年は既に多くの所得を得つゝありとす。而して全部が合居すると假定するに生計の費用は父の收入に妻及小供の與ふるものを合算して充當せらる。必要に際しては此總收入は各種の負債租税或は罰金にも向けらるゝものなり。

茲に吾人は夫妻と其結合により生せる子供とを以て成る經濟單位としての家族を見ること依

然たり。されどこれ決して此際に於ける唯一の經濟單位にあらず。家族の經濟單位を外部に對して代表し其從屬者全部の慾望を自己の慾望と同じく充足すべき父を外にして尙新民法に由て自ら贏得したるすべてのものに對する獨立の處分權を有する妻を見、又自己の贏得したる全額を提供する十七歳の少女と終りに宿泊料として一定額を支拂ひ尙殘部は自ら取得し消費する十八年の少年を見る。此少年は恐らく又其家計に對し與ふる所が過多に失せずや將たこれより低廉なる宿所他に存せざるやを考慮せるなるべし。然る時此處に吾人は父の經濟單位を外にして家族内に妻と十八歳の息を見るなり。

由是觀之、夫に對して妻の特殊財産と兩親に對する子の特殊財産は既に認められたるなり。之と伴ふて妻と子に對する家長の權限は制限せられ行くものとす。されど如上の妻と子の解放を可能ならしむるものは祖先の同一を基礎とせる往時の結合の權威換言すれば往時の經濟單位が消滅するの程度に従て同一地域に居住する凡ての者の上に立つに至れる一新個體、即國家之なり。妻と子は夫と父に對し近代立法に由り漸次其人格的自由を保護せらる。換言すれば個人的家族の内部にても經濟上並に人格的關係に於て妻と子の個性は漸次承認さるゝの度を増しつつあり、舊時の家族共產體の面影は夫と妻、尊屬親と卑屬親との狭小なる扶養關係に見らるるに過ぎざるなり。